

認知症への理解促進・認知症高齢者等の
社会参加に向けた取組

令和 7 年 2 月

高齢福祉課

目 次

1 普及啓発活動	1
(1) 認知症サポーター養成講座	
(2) 本人発信支援	
(3) 講演会・イベント、掲示による啓発	
2 認知症カフェの設置	3
3 チームオレンジの推進	4
(1) オレンジサポーターの養成	
(2) 認知症カフェにおける活動支援	
(3) 普及啓発活動支援	
(4) チームオレンジ定例会	

認知症への理解促進・認知症高齢者等の社会参加に向けた取組

第十次山口市高齢者保健福祉計画及び第九次山口市介護保険事業計画において、取組を進めている施策のうち、認知症対策の推進について、次のとおり報告します。

計画P58 基本施策2 認知症対策の推進

取組2-2-1 認知症への理解促進・認知症高齢者等の社会参加

(1) ねらい(事業をする効果)

■地域における認知症への理解が深まることで、認知症の人の意思が尊重され、社会参加が進み、希望を持って住み慣れた地域での暮らしができています。

1 普及啓発活動

認知症に関する正しい知識や理解、相談先の周知を目的として、様々な取組を行っています。

(1) 認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、認知症への社会の理解を深め、同じ社会の一員として地域をともに創っていくことが重要です。そのため、市では認知症の症状や対応方法について学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域の応援者である「認知症サポーター」を養成しています。

地域団体や関係団体のほか、認知症の人との地域での関わりが多いことが想定される職域の従業員等や学生への開催も増加しています。

<近年の認知症サポーター養成数>

R1	R2	R3	R4	R5	R6(R7.1月末時点)
604	766	885	1,094	1,115	1,570

累計サポーター数 18,580人(R7.1月末時点)

<令和6年度の受講学校>

		校名	学年	実施日	参加者数
1	小学校	佐山小学校	4年生	6月11日	23
2		小郡地域放課後児童クラブ (ひまわり学級、ひまわり第2学級、ひまわり第3学級)	全学年	8月19日 20日 22日	102
3		徳佐小学校(阿東東中学校と同時開催)	3～6年生	11月6日	37 (小・中合計)
4		鑄銭司小学校	4年生	11月26日	11
5	中学校	二島中学校	全学年	6月14日	37
6		宮野中学校	1年生	7月9日	79
7		阿東東中学校(徳佐小学校と同時開催)	全学年	11月6日	37 (小・中合計)
8		川西中学校ボランティアサークルきずな	全学年	12月15日	94
9	高等学校等	仁保中学校	1年生	1月21日	11
10		中村女子高等学校 看護科	3年生	7月10日	35
11		山口県立農業高等学校	2年生	2月7日	21(予定)
12		山口コ・メディカル学院 理学療法学科・作業療法学科	2・3年生	6月25日 7月16日	82
13		山口県立大学 希望者	全学年	10月2日	25
14	専門学校	山口大学 医学部保健学科	1年生	10月28日	70

<令和6年度の受講事業所>

	事業所名	実施日	参加者数
1	第一生命保険株式会社山口支社 キャリアカレッジ	4月25日 7月26日 10月29日 1月28日	51
2	株式会社ヤクルト山陽	4月17日 7月19日 10月22日 1月21日	36
3	株式会社サンキ	6月6日	17
4	医療法人 仁保病院	7月17日	21
5	山口県警察本部交通部運転免許課 (山口県総合交通センター)	7月10日 11日	76
6	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 山口支店	8月20日	12
7	大塚製薬株式会社山口出張所	10月21日	7
8	山口市役所	11月22日	34
9	株式会社サンリブ	11月22日	14
10	西日本電信電話株式会社(NTT)山口支店	11月28日	46
11	陸上自衛隊山口駐屯地	12月16日	160



宮野中学校



陸上自衛隊山口駐屯地

(2) 本人発信支援

認知症の人が、思いや体験を自らの言葉で語り、認知症とともに希望をもって前を向いて暮らすことができる姿を発信する取組を実施しています。市内在住の認知症本人大使「やまぐち希望大使」とともに、認知症サポーター養成講座や認知症カフェ等の場での講演や演奏披露、市政広報番組等のメディアを活用した幅広い普及啓発を行い、自らの工夫や周囲の支えにより、認知症があっても変わらずに、住み慣れた地域で自分らしく生活できることを伝えています。



山口大学 認知症サポーター養成講座



陶地域認知症カフェ「カフェ“スマイル”」

(3) 講演会・イベント、掲示による啓発

9月の認知症月間を中心に、認知症について広く啓発し、理解を深めるための講演会やイベントを実施しました。

また、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員を中心に、図書館や地域交流センター、商業施設、金融機関等において、市の取組や認知症に関する書籍の紹介、地域包括支援センター等の相談先などの掲示を行いました。

脳活イベント



9月5日徳地文化ホールにおいて、「脳活イベント」を開催し、97 名が参加されました。医師の講演会のほか、家族会によるワークショップや食生活改善推進員によるレシピ紹介等を行いました。

認知症講演会



10月19日県健康づくりセンターにおいて、「認知症講演会」を開催し、340名が参加されました。「認知症世界の歩き方」の著者を講師に招き講演を行い、会場ロビーでは認知症カフェを紹介するパネル展示を行いました。

書店における
掲示



TSUTAYA山口葵店の協力を得て、認知症に関する書籍や地域包括支援センターの紹介を行いました。掲示物の作成にはオレンジサポーターにもご協力いただきました。

宮野地域において、認知症カフェ・サロン参加者に「自分が認知症になったら周囲に伝えたいこと」をテーマにメッセージを集め、高齢者生きがいセンターに掲示しました。

住民の声を
集めて掲示



2 認知症カフェの設置

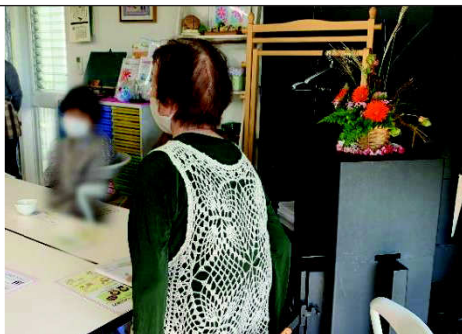
認知症の人や家族の居場所づくり、交流、情報交換等を行う場所として、認知症カフェを設置しています。令和6年度は、吉敷、嘉川、秋穂二島の3地域に新たにカフェが開設され、現在は市内19か所に認知症カフェが設置されています。※詳細は別添リーフレット参照

認知症カフェでは、認知症の人や家族、地域住民、専門職が会話やレクリエーション等を通じて楽しく過ごす場であることはもとより、認知症の人の社会参加や希望を叶える場、認知症や医療・介護に関する相談ができる場、認知症に関する普及啓発を行う場としての機能も有しています。

認知症の人の希望や思い、特技を活かした活動



コーヒーのグラインド



フラワーアレンジメント



二胡の演奏

認知症に関する普及啓発活動



カフェと中学生が共同制作した紙芝居

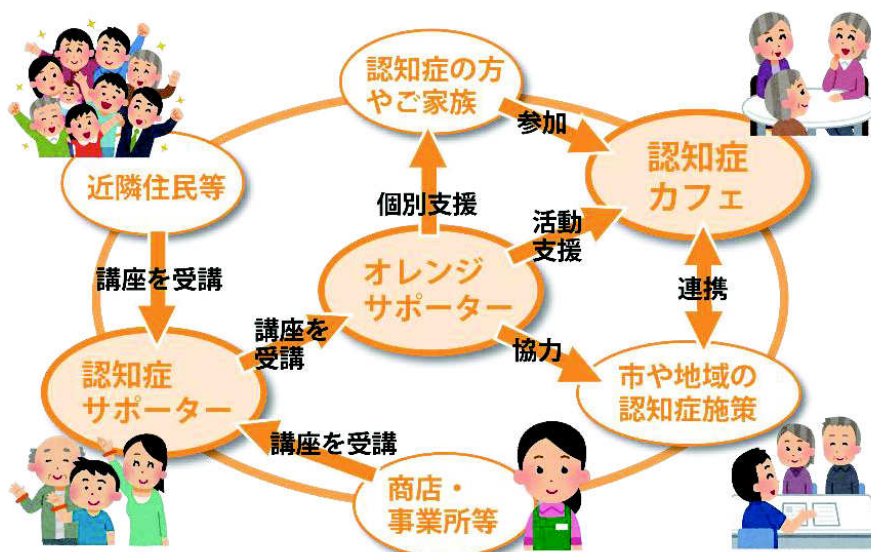


地域のまつりでのパネル展示

3 チームオレンジの推進

認知症の人や家族の支援ニーズとオレンジサポーター(ステップアップ講座を受講した認知症サポーター)を中心とした支援を繋ぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりのための具体的活動である「チームオレンジ」の取組を進めています。

「山口市版チームオレンジ」の構築イメージ



本市においては、オレンジサポーターが認知症の人や家族の思いを聞き、住みやすい地域にするために、サポーターの考えや思いを認知症カフェや市事業に活かし、市民とともに認知症ケアに携わる体制を構築し、次の取組を実施しています。

(1) オレンジサポーターの養成



認知症サポーターに対し、ステップアップ講座として「オレンジサポーター養成講座」を2月7日に開催し、チームオレンジとして活動するサポーターを養成しました。

講座では、VR体験を取り入れ、認知症の中核症状を疑似体験することで、認知症の人の気持ちに立った関わり方について学びを深めるとともに、既にチームオレンジとして活動しているオレンジサポーターから、サポーター活動の意義や楽しさについて紹介しました。

(2) 認知症カフェにおける活動支援

認知症カフェにおいて、オレンジサポーターが認知症の人や家族の話の傾聴や活動のサポートを行っています。

また、カフェの運営にも携わっており、オレンジサポーターの意見や考えを活動内容に反映させたり、オレンジサポーターの特技を活かしたレクリエーション等も実施しています。



(3) 普及啓発活動支援



オレンジサポーターが認知症サポーター養成講座の内容を市や地域包括支援センターとともに考え、実施しています。受講者に認知症の症状や対応方法を分かりやすく伝えるための寸劇を取り入れ、寸劇の脚本作成や演者をオレンジサポーターが行いました。

その他にも、商業施設における掲示物の作成にもオレンジサポーターが携わりました。

(4) チームオレンジ定例会

オレンジサポーター同士が定期的集まり、活動内容の話し合いや活動報告を重ね、安心して生活できる地域にするためにどんな活動ができるかを考えています。

令和6年度は新たな取組として、定例会に認知症看護認定看護師を講師として招き、認知症の人や家族への関わり方についての学習会を開催しました。

